

「ハワイアの土地」に住むということ

オアフ島ワイアナエ地区における多様性

四條真也(首都大学東京大学院 博士後期課程)

アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島西岸に延びるワイアナエ地区は、州内でも最大級の先住ハワイ人(カナカマオリ)入植地ハワイアン・ホームステッドを擁する地区である。ハワイ人入植地であるハワイアン・ホームステッドは、1920年に制定されたHawaiian Homes Commission Actにより、50パーセント以上ハワイ人の血を受け継ぐ住民らに分譲された入植地である。現在ハワイ州内には45のハワイアン・ホームステッドが造成され、ワイアナエ地区には合計3箇所のハワイアン・ホームステッドが整備されている。

ワイアナエ地区におけるハワイアン・ホームステッドにはおよそ8,684人のハワイ人が居住し、これはハワイ州全体のハワイ人人口の約20パーセントを占める。なかでも住人約5,099人を抱えるナナクリ・ハワイアン・ホームステッドはハワイ州内最大のホーム・ステッドである。ワイアナエ地区に住む住民約4万2000人のうち、23%の住民が自身の出自としてハワイ人を第一に挙げており、これは州内でのハワイ人の人口比約6パーセントに比べても高い割合である。

観光開発が進んだハワイ州のなかでも、ワイアナエ地区一帯には開発の手が加わっていない土地が多く残っていることから、ハワイの地元住民の間では「ハワイ人の土地」として広く認知されており、同地区はオアフ島内のほかの地域とは長く一線を画してきた地域であると言える。また、自然や、住居や神殿の跡などが今でも残るワイアナエ地区は、1970年代以降のハワイ文化復興運動、いわゆるハワイアン・ルネサンスにも影響を与えてきたと言っても過言ではない。地区内にある中学・高校では、ハワイ文化を中心に勉強するコースが設けられ、ワイアナエ地区におけるハワイ文化復古の中心的な役割を果たしている。

一方で、同地区はハワイ州全体の状況同様サモア系やフィリピン系、日系、沖縄系、中華系、朝鮮系、ポルトガル系、そしてアメリカ本土からのやってきた住民など様々な民族・文化が同居する土地でもある。ワイアナエ地区にあるハワイアン・ホームステッドに住む住民も、現在ではほとんどがハワイ人以外の血や文化を受け継いでいる住民である。さらに、ハワイアン・ホームステッド以外の同地区内には、仏教寺、サモアン・チャーチなども見られ、盆踊りやサモアン・ダンス、タヒチアン・ダンスなどが地域の催しとして住民に親しまれている。

本発表は、上記にあげたように多文化・多民族的性格を持つワイアナエ地区の住民が、「ハワイ人の土地」の住民としての意識を持つと同時に、どのようにワイアナエ地区の多様な文化的状況をとらえているかを、発表者の長期フィールド・ワークをもとに考察を試みるものである。発表においては、特にワイアナエ地区でハワイ文化の継承に携わる農園の活動の参加者を例に、様々な文化・民族背景を持つ活動参加者のハワイ土着の文化、そしてワイアナエ地区で見られる諸文化への取り組み身の様子、さらにはハワイ人である住民が自身のハワイ文化以外の諸文化をどうとらえているか、「先住民の土地」における文化の多様性の様子を考察する。

また、ワイアナエ地区に隣接するオアフ島西南にカポレイ地区では、大型の都市開発計画が始められ、ホノルル中心街の州の首都機能を半分移転する開発計画にともなう政府関連施設や鉄道建設、大型商業施設などの建築と同時に、新興住宅地の造成が現在進行中である。今後ワイアナエ地区においても人口の増加が予想されており、この開発計画が今後ワイアナエ地区にどのような影響を与えるのか、本格的な開発を前に現在の状況を記録しておくことは有用であると考えられる。

【 ハワイ人、地域活性、先住民族、多文化、ローカル・アイデンティティー 】